北九州市立文学館
Kitakyushu Literature Museum

この小説がすごい！450 作品の中から決定

令和６年２月１日
北九州市市民文化スポーツ局

『第１０回　林芙美子文学賞』
「受賞者」の決定と「表彰式・記念トーク」の開催

新たな文学の才能が世に羽ばたくことを期待して実施している「林芙美子文学賞」。今年度も、全国から４５０編の応募があり、このたび、受賞者が決定しましたのでお知らせします。これに合わせて、「表彰式・記念トーク」を行いますので、取材・広報等よろしくお願いいたします。

記

１　受賞者・受賞作品　　大賞　大原　鉄平　（作品名：森は盗む）
　　佳作　鈴木　結生　（作品名：人にはどれほどの本がいるか）
２　受賞作品のあらすじ　別紙のとおり
３　表彰式・記念トーク
（１）日　時　　令和６年２月２５日（日）１３：３０～１６：００
（２）会　場　　J:COM 北九州芸術劇場「中劇場」（リバーウオーク北九州６階）
（３）内　容　　主催者挨拶、来賓挨拶、表彰及び講評、受賞者挨拶、
　　最終選考委員による記念トーク（登壇者：井上荒野氏、
　　角田光代氏、川上未映子氏）
　　（詳細は別添「チラシ」をご覧ください）
（４）参加申込　事前申込みが必要（定員４００人）。２月２４日（土）までに、
　　北九州市立文学館へ電話（０９３－５７１－１５０５）
　　でお申し込みください。

【林芙美子文学賞とは】
北九州ゆかりの作家・林芙美子にちなみ、本市の文学的土壌を全国に発信するとともに、新たな文学の才能を発掘することを目的に、平成２６年に創設した文学賞です。
これまで受賞された方々はその後も活躍され、第２回大賞受賞者の高山羽根子さんは、第 163 回芥川賞を受賞されました。また、第７回大賞受賞者の朝比奈秋さんは、第 36 回三島由紀夫賞、第 51 回泉鏡花文学賞、第 45 回野間文芸新人賞を受賞されました。

【問い合わせ】
北九州市立文学館　（担当）山本、藤永
Tel　093-571-1505　Fax　093-571-1525

別紙

第十回　林芙美子文学賞　受賞作品あらすじ

【大賞】　大原　鉄平

受賞作「森は盗む」

地方の工務店に勤める設計士の上湖（うえこ）は、同僚である大工の吉武の手癖の悪さを気にかけている。吉武は親である先代棟梁が引退したあと、棟梁を継いだ腕のある職人であるが、人のものを盗む。

母子家庭に近い環境で育った上湖はそんな吉武を残念に思いながらも、その存在に自らの曖昧な父親像を重ねていく。上湖は施主の家族モデルを空想するが、やがて上湖の心に吉武を父とする別の疑似家族が構成されていく。

ある日、施主の二人の幼い子供の面倒を見るために現場を訪れた上湖は、子供を遊ばせるため近くの森へ向かう。その森にはかつて吉武が先代棟梁に入れられていたという家があった。やがて偶然上湖はその家に辿り着くが、それは家ではなく、牢だった。上湖は牢に入り、幼い吉武のことを思う。そして事件は起きる。

第十回　林芙美子文学賞　受賞作品あらすじ

【佳作】　鈴木　結生

受賞作「人にはどれほどの本がいるか」

「小倉の高級旅館『如雨露館(じょうろかん)』の経営者でありながら、在野の文筆家集団『カラメル会』の中心人物でもあった唐蔵(からくら)餅之絵(もちのえ)は、老境に差し掛かり、自身の書庫『垢手見舎(あかでみや)』にある膨大な蔵書を整理・処分する必要を感じていた。助力者を募集し、芦屋具備(あしやぐび)という少女に目を留める。二人は本を通して交流を深め、具備は見事、『垢手見舎』の蔵書を目録化してみせた。しかし、亡き妻・斡のことを詮索され、具備を遠ざけてしまう餅之絵。彼女のまとめた目録と向き合いつつ、自らの人生を省みる。やがて、具備と再会した餅之絵は、彼女と共に、人生の総決算となる一冊の本の作成を目指すのであった。」

「私」は、祖父・餅之絵が晩年に肌身離さず持ち歩いていた本の中の「To my young help Ashiya Gubi」なる献辞から、かくいう物語を空想する。「カラメル会」の会報に掲載された、この物語を読んだ「私」の父は、「足舎具美」というのが祖母の筆名だったことを教えてくれる。